

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520076

研究課題名（和文） 啓蒙と誤謬：『百科全書』の「学芸の全体的・合理的歴史」に見る「誤謬の歴史」の役割

研究課題名（英文） Enlightenment and errors : the role of the "history of errors" in the "general and rational history of sciences and arts" of the *Encyclopédie*

研究代表者

井田 尚 (IDA HISASHI)

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：10339517

研究成果の概要（和文）：『百科全書』（1751-72）を対象に、「誤謬」（«erreurs»）の語を含む全項目を調査し、科学項目の記述内容を詳細に分析した。その結果、『百科全書』の科学項目で記述される誤謬には、語彙のメタファー的使用に発する誤謬、対立仮説へのレッテル貼りとしての誤謬、俗信・迷信としての誤謬、不動の真理から誤謬に転じた「支配的誤謬」、誤謬から真理に転じた過渡的誤謬など、様々なケースが見られることが分かった。

研究成果の概要（英文）：I have undertaken a thorough research on the whole text of the *Encyclopédie* (1751-72) using « errors » as a keyword, and analysed the articles concerning scientific disciplines. As a result of this research, I found that the "error" described in the scientific articles of the *Encyclopédie* has several patterns, as summarized below : 1. the error based on a metaphorical use of scientific terms ; the error occurred by labeling opponent hypotheses ; the error as popular beliefs or superstitions ; the error as « dominative error », which, after being treated like a piece of truth for long years, turned out to be an error ; the error of transitional type , which was found out to be true by the progress of science and technology after being exposed to prejudices.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：18世紀フランス思想

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：思想史、科学史、啓蒙思想、18世紀、フランス、百科全書

1. 研究開始当初の背景

『百科全書』に代表されるフランス啓蒙思想の研究は、フランス革命以後の近代における合理主義的な啓蒙思想解釈の伝統から、普遍的真理を志向する合理主義的認識論およ

び宗教的迷信や封建的旧弊に対する合理的・近代的批判を強調したものが多く、未だに啓蒙思想から一般にイメージされる「合理主義的精神」という既成概念の枠に捕らわれているきらいがある。

この点では、哲学史的研究であれ、社会思想史的研究であれ、アプローチこそ違え、事情はさして変わらない。無意識のうちに「理性」や「進歩」を自明の所与と見なすこれらの研究の記述は、ある「真理」の客観的存在を前提する論点先取の誤りに陥りがちだからだ。戦前から戦後にかけての日仏十八世紀研究が左翼の進歩主義的イデオロギーの影響下に置かれた研究史的背景もこのような一面的な啓蒙思想解釈を強めたものと思われる。

現在ではそうした先入見や傾向性を排し典拠研究など緻密な実証主義的アプローチに基づいて啓蒙期のディスクール（言説）を歴史的な脈の中で解釈する手堅い研究手法が主流となっているが、啓蒙思想＝合理主義という思い込みは依然として根強く、啓蒙思想における「誤謬」の問題にまともに取り組む研究は、国内・国外を問わずこれまでほとんどなかった。

60年代以降、百科全書研究を飛躍的に発展させた功労者ジャック・ブルースト、ジョン・ラフ、現在の第一人者マリ＝レカ・ツイオミスですら、誤謬の問題を正面からは論じていない。現実の歴史で学芸の停滞を招き、フィロゾフ達が思い描く人間知識の進歩を妨げて来た障害物として「誤謬」を否定的に評価する歴史観には、やはり抜きがたいものがある。

だが、「真理」もまた、「誤謬」を含む真贋入り乱れる数多くの見解の中から経験的吟味を経て析出されるものであり、ある時代に「真理」とされる科学理論もカール・ポパーが主張するように反証可能であるとすれば、無謬の「真理」は存在し得ず、「真理」と「誤謬」の判別基準は相対的であることが分かる。ルソー研究者・文芸批評家ジャン・スタロバンスキーは、『作用と反作用』（原著 1999、拙訳 2001）の中で、ニュートン力学の作用・反作用の法則を例に、科学的な大発見がいかに支配的ディスクールを形成しようとも、実際には「誤謬」や「濫用」を含む雑多な「発見」に満ちていたある時代の科学を、ミシェル・フーコーが「エピステーメー」と呼んだような単一のディスクールに還元することはできないと述べている。

科学史の領域においても科学と疑似科学の境界線や科学知識の社会的普及に伴う通俗化や誤解といった新たな問題を提供し、知的探求心のひとつの表れとして科学的発見や学問的知識の発展を促す「誤謬」の歴史的価値がこうして再認識されつつある中、理性と真理を旗印に掲げた合理主義的な思想運動としての側面ばかりが強調されがちな啓蒙思想の集団的知を象徴する『百科全書』を対象に「誤謬の歴史」を研究する意義は極めて大きいものと思われた。

2. 研究の目的

本研究では、啓蒙思想を代表する百科全書派の錚々たる思想家達が参加し、あらゆる学問と技芸の分野にわたる人間知識の集積の分類と記述を目指した『百科全書』（1751-1772）を主たるコーパス（資料体）として、編集長のディドロら執筆陣の面々の個々の思想著作との同時代的な関連性や異同も視野に入れながら、『百科全書』の科学項目を中心とする諸項目に見られる「誤謬」の記述を分析することを目指した。なお、ここで言う「誤謬」には、事実の錯誤に起因する学問的誤謬から通念、俗信、迷信などの心理的・社会的な誤謬までが含まれる。

ディドロと並ぶ『百科全書』の編者ダランベールは、著書『哲学の基礎』で、『百科全書』の四大記述対象として、「知識」、「見解」、「誤謬」、「論争」を挙げている。この分類は、歴史的に獲得されたあらゆる人間知識を、「真理」に当たる本来の「知識」（«connaissances»）とそれ以外の「見解」（«opinions»）とに区別した上で、後者を蓋然の見解、謬見、党派的信念の三種に分類したものとと言えるので、これらの「見解」は、真理からの隔たりに応じて「謬見」として定義され得ることになる。

ただし、「謬見」が記述される項目が属する学問や技芸の分野はあまりに広すぎるため、今回の研究では、過去の大発見と支配的理論としてのパラダイムを時系列に沿って整理した近代的な科学史の進歩史的な記述からこぼれ落ちる科学的誤謬の概念に絞りを絞り、『百科全書』の医学、生物学などを中心とした科学項目で記述される誤謬理論

の歴史を歴史叙述の観点から分析すること、そして、一見客観的に見えるそれらの項目の歴史叙述に潜む執筆者の党派性や論争的意図を明らかにすることを研究期間の目標に定めた。

本研究の最終的な狙いは、こうした「謬見」の記述の具体的な分析を通じて、百科全書派による「真理」と「誤謬」の境界確定に見られるプロパガンダ的・論争的性格を明らかにすることにあった。ディドロを長とする百科全書派の思想家達は、経験論の立場から実験や証言に基づく事実の検証を重んじ、「真理」と「誤謬」を判別する重要な基準として「確実性」(«certitude»)の概念を採用したが、およそいかなる時代にも論争の文脈を離れた中立の「真理」はあり得ないので、一見近代の科学的思考の所作を先取りする客観性を帯びたこうした経験論的な「真理」概念の定義も、同時代の守旧派の諸学派を中心とした対抗勢力と知的ヘゲモニーを競う百科全書派の論争的意図を反映した歴史的性格を伴うものと考えられたからだ。

3. 研究の方法

今回の研究では、初版(パリ版)、ジュネーヴ版など18世紀の版本、現代の縮刷版など紙媒体の『百科全書』を最終的な典拠として踏まえる一方で、主として準備段階におけるパソコンソフトを用いたデータベース作成には、検索語による全文検索の機能に優れたシカゴ大学のインターネットサイト Artfl Project の電子版『百科全書』を積極的に活用した。電子データによるキーワード検索を行うことで、肉眼では見落としが避けられない『百科全書』全巻・全項目の網羅的かつ能率的な調査が可能となった。

電子テキストを利用したキーワード検索は、時として人文諸学においては、全体の文脈を踏まえた原典の読解を疎かにし、自分の目ではなく機械の力に頼る安易な手法として疎んじられてきた。しかし、検索は瞬時に出来ようとも、コンピュータが探し当てた玉石混淆の膨大なデータの全てに目を通し、原典で前後の文脈も確認し、必要なデータと不要なデータを選別する作業は結局肉眼と自分の判断で行うしかなく、データの収集と加

工に数ヶ月から半年に及ぶ時間を要することを考えれば、何も成果が出ないリスクを覚悟で臨まざるを得ないことも付言したい。だからこそ、『百科全書』のような巨大コーパスを対象とする場合、パソコンによるキーワード検索は、初期段階のデータ収集にかかる時間を大幅に短縮する上で、非常に有意義と言える。

本研究では、「誤謬」をキーワードとする検索によってリストアップした1000件近くのデータを科学的誤謬の観点からさらに数百件に絞り込んだ上で、データベースソフト FileMaker Pro を用いてカードデータに加工したものを、同時代の百科全書派の文献とともに、論文および著書執筆の一次資料として利用した。

近年、欧米、そして日本でも『百科全書』の電子化が急速に進んでいるが、キーワード検索を積極的に活用して、ある思想的テーマに関してまとまった研究を行った事例はそれほど多くないため、『百科全書』研究会で行った口頭発表では、鷺見洋一教授をはじめとする『百科全書』電子化プロジェクトチームのメンバー達から、電子版『百科全書』の新たな可能性を示す研究手法との積極的な評価を得た。

フランス、イギリス、アメリカなど欧米の国立図書館では過去の文献が続々と電子テキスト化されており、利用可能な電子テキストの点数が飛躍的に増加している。こうした現状を考えると、コンピュータによる全文検索を導入したこの研究手法は、『百科全書』に限らず、思想史研究一般に広く適用し得るものであり、肉眼による原典読解を大前提とした上で機械的検索に目的を絞って併用する分には、人文系の学問研究の効率化とスピードアップに寄与するものと確信しており、今後の研究でも是非活用したい。

4. 研究成果

研究期間に実現可能な目標として、『百科全書』の科学項目における誤謬批判の諸類型を洗い出す具体的な作業に取り組み、大判で17巻に及ぶ全巻・全項目を対象に「誤謬」(«erreurs»)をキーワードにした網羅的調査を実施した。

該当箇所と原典との照合による文脈の特定やテーマの分類をはじめとする、さらなる精査によって浮上した数百の重要項目を分析した結果、「誤謬」の概念が記述される重要項目が医学、生理学、化学、天文学など「正統な」科学ばかりでなく、錬金術、占星術などのいわゆる疑似科学にも分布しており、しばしば前者と後者の弁別を巡って「真理」と「誤謬」との境界線が問われることが全体的な傾向として明らかになった。

そして、これらの科学項目の本文の叙述の詳細な分析から、『百科全書』の科学項目で記述される誤謬には、1) 化学における「発酵」の概念のように、ある分野から他の分野への用語の拡大適用による語彙のメタファー的使用に基づく誤謬、2) 炎症の原因をめぐる生氣論者と機械論者の論争に見られるように競合関係にある対立仮説に対するレッテル貼りとしての誤謬、3) 錬金術や賢者の石の概念に見られるように俗信・迷信としての誤謬、4) 医学を支配した占星術理論や天文学を支配した天動説のように、長いこと真理とされた後に誤謬であることが明らかになった「支配的誤謬」、5) 種痘の概念のように当初から偏見にさらされながら学問や技術の進歩によって真理と見なされるようになった過渡的な誤謬など、様々なパターンが見られることが判明した。

今回の研究テーマについては、研究の進展に応じて複数の論文で発表するとともに、総括的な論考を共著『科学思想史』として刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

① 井田尚、『『百科全書』項目「脈拍」及び「瀉血」の歴史叙述と啓蒙期の医学論争」、青山学院大学『紀要』(査読無)、2011年第52号、pp. 91-114.

② 井田尚、「思想家ルソーの原点—『学問芸術論』と啓蒙の逆説—」、『思想』(査読無)、岩波書店、2009年第11号、pp. 132-150.

[図書] (計 1件)

① (著書・共著) 金森修、佐藤恵子、隠岐さや香、井田尚、吉本秀之、本間栄男、山内志朗、今井正浩、『科学思想史』、勁草書房、2010年、pp. 187-253.

[その他]

ホームページ等

<http://raweb.jm.aoyama.ac.jp:80/aguhp/KgApp?kyoinId=yimingboiggy>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井田 尚 (IDA HISASHI)
青山学院大学・文学部・准教授
研究者番号：10339517